

矢筈岳の報告

【山城】川内山塊

【ルート】魚止山～矢筈岳ピストン

【登山方法】藪山

【行動日】4月23日～25日（前夜発）

【行程】

4/22 千葉 20:00－東北道－磐越道－川上 PA 仮眠

4/23 津川 IC－室谷集落－尾根取付 6:50－魚止山 12:10－1126 ピーク 13:20 幕営

4/24 幕場－三川分水峰－1045m ピーク 9:45－下矢筈岳 11:33－矢筈岳 12:05－下矢筈岳
13:25－1045m ピーク 14:05－三川分水峰 17:10－幕場 1120m 18:16

4/25 幕場 6:00－魚止山 7:20－取付 10:10－津川 IC－磐越道－東北道－帰葉

【内容】

4/23（晴れ）林道本名室谷線は、室谷洞窟で、閉鎖されていたが、地元の人が丁度奥から車で通りがかり、すんなり通してくれた。途中一箇所石を避け、終点まで乗り入れ、2時間の林道歩きは省けた。しかし、雪が全くない。やっぱり、かなりの藪漕ぎは免れないだろう。取り付きは、怪しげなトラロープの下がる滑る岩から始まった。少し複雑な地形も踏み跡とテープを辿り魚止山山頂を目指す。標高 500m を過ぎると冬椿の藪から太郎山が見え始め、藪と雪を交互に進み山頂直下は踏み跡のない急斜面の藪を這い上がったら魚止山の三角点に出た。



御神楽岳をバックに澤田さん



魚止山山頂 吉川

帰りは、ここより少し南側の踏み跡のあるヤブを漕いで下った。ここから、北側の雪を繋いで 1120m のピーク手前の鞍部に難儀しながら進み、目の前の雪の斜面を登りきると 1120m のピークに立った。目の前に広がる幾重にも重なりあう山波！山しかない景色に感動する。矢筈岳、青里岳、昨年敗退した五剣谷岳が、今早出沢の谷向こうに聳え立っている。落ちていくと、駒形山、浅草岳、守門岳、粟が岳などの山々も判明できる。これから進む稜線は、黒々した元気な藪がうねり続いている。荷物を担いで進むには負担が大きすぎると思い、少々早いですが、この素晴らしい眺めの雪原にテントを張り、明日、身軽で

矢筈岳に登ることにした。

夕方は、ガスに包まれていたが、朝方は、おぼろ月に、山稜が浮かんでいた。ここに立って居ることに幸せを感じる。



威風堂々とした川内山塊最奥 矢筈岳

4/24 (晴れ) 寝坊して、6時出発！始めの藪は、掻き分けることもなく踏み跡を下るも東の間 1055m のピーク辺りからマンサクの花を付けた灌木や、しゃくなげ、ツゲなどがミックスしてくると蜜藪となり、枝を掻き分けたり、泳ぐようにくぐり抜けたり、たまには、枝のはねっかえりの洗礼を受けたり、身軽とは言え、満身創痍だ。三川分水峰で駒形山への稜線を分け矢筈岳へ進む。ここは、早出川、五十嵐川、常良川の源頭部で分水嶺になっている。駒形山への稜線もとても魅力的！1049mピークの藪岩稜を越えると青い岩盤が露出した尾根上に立つ。ガンガラシバナの岩壁が、一筋の滝を添えて今早出沢に落ち込んでいる。すごい景色！矢筈岳の勇姿は、すごい迫力で迫ってくる。その上部が下矢筈岳だが、



深い谷の早出川源頭部



大谷と格闘中

藪のピークを越え回り込んでいくので、矢筈岳に手が届きそうで届かない距離に感じてしまう。1045m のピークで向きをかえ下矢筈岳へと北上する。ここは、6 割雪を繋ぎ、下矢筈岳の急な雪面を登り、暫く稜線を進むと矢筈岳山頂だ。昨年悪場峠から、五剣谷岳で敗退して、今年こそと思っていたが、1 週間前に今年の実績を見つけ、藪漕ぎを覚悟で実行に踏み切った。



藪稜線奥の矢筈岳



孤を描くように稜線を辿る

あまりに時間がかかり、敗退！？がよぎったが、後半ペースを上げぎりぎり登頂できた。同行の澤田さんに感謝です。360 度の展望は、山波が押し寄せてくるよう！人工物は、山頂の標柱のみ！河内山塊の最奥矢筈岳の山頂に立てた。喜びと感動で感無量の境地！



右、下矢筈岳～左、矢筈岳



矢筈岳山頂の澤田さん



左、青里岳青里岳 ~ 五剣谷岳 奥、栗ヶ岳



下矢筈岳急下降、奥駒形山

登頂の喜びを胸いっぱいにて下山する。鮮明に覚えているしつこい藪、蜜な藪のピークをうねうね越えて、陽が矢筈岳に沈み夕やけに染まる頃ようやくテント場に到着した。

4/25 (晴れ) 鶯と共に過ごしたテント場に別れを告げ、矢筈岳を背に魚止山へと下る。雪原で下りの足跡を発見し、山中誰一人会わなかったのに不思議と想っていたら、4月24日に、駒形山から魚止山の周回した人の記録が載っていた。その人は、我々のテントを見ていた。



快適なテント場に後に



太郎山をバックに澤田さんお疲れ様！

順調に下っていたが、標高 470m 辺りで、テープを見落としらしく、尾根を外してしまい登り返しのアルバイトをしてしまった。その後テープを見逃さないよう二人でテープを探しながら下った。この下りルートは登りのルートではなかった。樁の藪で、踏み跡を見失いがちながら、ようやくロープの下がる崖に辿り着き、無事下山できほっとした。

良い天気集落の庭先では、大釜で、ゆがいたぜんまいを、むしろに座り、もんでいる光景があちこちに見られ、その風景にぬくもりを感じた。傷だらけの、腕や、足を温泉で癒し、渋滞のない高速道路を帰る。

青い岩盤の尾根から見た、矢筈岳は、威風堂々と聳え素晴らしかった。

今回、単独の予定だったが、急遽澤田さんの参加で楽しかったです。雪稜を歩きたかった澤田さんには、申し訳ない気持ちですが、ほんとうにお疲れ様でした。計画書の登山方法は雪山でしたが、全行程の 2 割程度しか雪を繋げられなかったもので、報告は、藪山に訂正です。

追記

この山行後、佐渡ハイキングで、新潟県山岳会自然保護研修会に参加し、矢筈山岳会の会員の方々とも交流でき、矢筈岳の標柱を担ぎ上げたご苦労や、川内山塊は、深山にもかかわらず、五泉市から安易に山に踏み込めるので、遭難事故も多いと伺った。地元の山を愛し守っているからこそその話題は興味深いもので感銘した。